

## コンサルテーション事業報告

**事業名** 重複障害児・者コミュニケーション支援

**事業代表者** 川住 隆一 (人間発達臨床科学講座)

**対 象** 重複障害児・者、重複障害児・者の家族、重複障害児・者が在籍する学校の教師、関係機関職員

**目 的** 重複障害児・者と周囲の者とのコミュニケーションが成立・展開することを目標として、各々の生活の場や活動の場におけるコミュニケーションの機会と方法の開発を行うことを目的とする。また、このための周囲の在り方について、保護者や教員、福祉・療育機関職員とともに探っていく。

**主なスタッフ** 川住隆一および川住研究室在籍学生

東北大学大学院教育学研究科：野崎義和・南島 開

東北大学教育学部：小野健太・平山美穂

### 実施内容

#### (1) 教育相談として対応している事例 (8 事例)

8 事例は、青年期および児童期にある盲ろう、重度肢体不自由、あるいは重度知的障害を有している。各々月に1度位の割合で保護者と共に来談しており、研究室やプレイルーム等で対応している。全員がコミュニケーションの発信・受信手段やコミュニケーション内容の拡がり为目标であるが、その他に、楽器や玩具の操作行動、絵画の表現行動、スイッチの操作行動の広がりも大きな課題である。

本年度は、この内の盲ろう事例について、触手話・指文字を手段として家庭での話し相手を継続してきた平山が、話題が最も豊富に出る家庭での食事場面における会話内容の分析を通して、話題の変容や「おしゃべり」を維持・発展させるための方略について卒業研究としてまとめている。また、野崎が Rett 症候群事例についてコミュニケーション関係を基盤とした探索行動の促進経過をまとめ、本教育ネットワークセンター年報で報告している (野崎・川住, 2013)。また、1 事例については、訪問看護ステーションに所属する作業療法士と連携して、家庭におけるコミュニケーションの促進やコミュニケーションエイドの利用について取り組んだ。

**(2) 病院・施設に長期入院中の事例（1事例）**

国立病院重症心身障害児病棟に入院していて、重度肢体不自由のため発信手段に大きな制約はあるものの言葉の理解力が比較的高い成人女性1名について、野崎がパソコン操作による文字でのコミュニケーション支援を実施した。併せて本人の「語り」への傾聴を継続してきた。

**(3) 支援学校教師や団体職員との連携**

代表者は、宮城県立支援学校小学部2年生の重複障害児学級担任の教師と連携し、在籍児童のコミュニケーション行動を拡げる糸口や AAC・支援器機使用の方略について検討してきた。また、宮城県内の津波被災地において障害のある子どもと暮らしている保護者と支援団体の依頼を受け、10家族ほどの保護者にコミュニケーションという観点から話題を提供し、また家族が普段抱える疑問等について話し合いを行った。

**(4) 研究発表等**

野崎義和・川住隆一（2013）Rett 症候群者とのブロック玩具を介した共同活動の展開過程—物的環境の調整による運動方向分化の促進を通して—。東北大学大学院教育学研究科教育ネットワークセンター年報，第13号。（印刷中）

平山美穂（2013）盲ろう者の会話内容とその変化について。平成24年度（2012年度）東北大学教育学部卒業論文。